

# 本紙こだま投稿者と斐川東中



投稿を学校に紹介した経緯など、酒向武さん（右）と話す清水京香さん

山陰中央新報の投書コーナー「こだま」への投稿をきっかけに、松江市在住の男性が1日、出雲市立斐川東中学校（出雲市斐川町沖洲、森山善三校長）を初めて訪れ生徒と対面した。同校のスローガンに感動したのが始まりで、今後、一緒にボランティア活動するなど交流の継続を約束した。

（三原教史）

学校を訪問したのは酒向武さん（77）＝松江市国屋町。2020年9月、山陰中央新報の「さんいん学聞」の学校紹介記事にあつた同校生徒会のスローガン「輝笑転結」の制定理由を知り、座右の銘にしたことをこだま欄に投稿した。これを、3年生の清水京香さん（15）が見つけて学校で紹介。森山校長がお礼の手紙を送ったところ同校の訪問が決まった。

酒向さんは、スローガンを決めた生徒会の永見研太前会長（15）ら11人と対面。「生徒一人一人が輝き、笑顔あふれる学校にしたい」という意味を知り、素晴らしい考え方と共に感心した。こんな機会が得られて光榮」と出会いの場が生まれたことに感謝した。

1日付のこだま欄には投稿に対する清水さんの返事も掲載された。清水さんは「コロナで外部の人との活動ができないけど、新聞で

## 新聞が縁 交流広がる

# 「輝笑転結」標語に感動

やうどりして自分たちを見守ってくれている人がいることを知り自信になつた」と話し、つながりが後輩たちに受け継がれることを要望した。同校では、地域住民と合

同で最寄り駅の清掃奉仕活動などに力を入れており、今後はボランティアに取り組む酒向さんにも参加してもらい交流を続けることにしている。